

八丈島文化協会 会報 第15号

八丈町三根4869-1 八丈島文化協会事務局 Tel/Fax 2-2833
HP: <http://www.8jobunka.jimdo.com/> e-Mail: bunkakyoukai8jo@yahoo.co.jp

2016年12月2日

会員紹介

おぎのゆき
荻野有希 さん

私は、マリンバ・ピアノを演奏し、また歌も歌います。特に、打楽器でありながら音階があるマリンバは、音色も深い木の響きがするので、他の楽器や文化と親和性が高いと感じています。2016年は、芸能文化祭や24時間太鼓などに参加させていただきました。これから、もっと多くのコラボレーションをしていきたいと思っています。また、

“音の見える化”をしてみたい、という夢も持っていますので、2017年はそのあたりも実現していきたいです。

そして、私は大賀郷で、音楽教室「Gold Breath」を主宰しています。ピアノ・マリンバ・歌、と、

それぞれが希望したもので週に1度、50分、レッスンをしています。教室は、自宅の一室を防音室にリフォームしており、安心して音が出せる環境です。私は、音楽は歌うところがすべてだと感じています。レッスンではまず自分がどう感じたか、ということ大切に、一緒に音楽をつくっています。そのため、年齢や音楽歴は不問、現在4歳〜70代までの方がいらっしゃいます。見学も、大歓迎です。移住して4年目、このまま八丈島に住み続けます！これから、どうぞよろしく願いいたします。



(右写真) 24時間太鼓で、シャンソン歌手“あみ”さん(左)と

文化協会設立5周年記念祝賀会を開催 協会と島の文化活動活性化へ多くの皆さんと交流

10月10日は文化協会の誕生日(創立記念日)です。この日5周年記念の節目を祝う祝賀会を開催しました。日ごろ協会の運営に尽力している役員・会員の他、多くの行政、議会、関係機関のご来賓がかけ付けて下さり、協会の活動の拡がりを垣間見る祝賀会となりました。30数名の出席者全員が意見・感想を述べ、5年間をそれぞれに振り返り、新たな10周年への歩みと決意を誓い合いました。後半は余興や全員に当る記念品抽選会で楽しいひと時でした。

内山会長は、創立間際の初代享年会長の逝去や、活動の方向が見えにくい草創期の困難に触れながら、少しずつ組織活動が日常的に出来つつある協会へと変化の途上にあること、ここまで到達できたことへの関係者の支援・協力に感謝を述べました。

来賓の山下奉也町長は、「ホールが出来るので文化協会を設立できないかと、享年さんと内山さんに相談したのがつい先日のような気がする。良くやって貰っているがさらなる活動を期待する」。土屋博町議会議長は「設立間もないが良くやっている。伊豆諸島ただ一つの文化協会だ。八丈島をアピールしながら他の島々へも働きかけ、文化的な協働や指導が出来るよう頑張ってもらいたい」。佐藤誠教育長は「教育委員会は文化協会の窓口的存在だ。活動が活発になるようにこれまで以上に協力し合って、島の文化発展に支援していきたい」などの暖かい言葉で期待と励ましと今後の協力強化で祝っていただきました。

協会の取り得である「地域での日常活動」をますます盛んにし、協会への期待や島でやるべき活動の大切さを、誓い合った5周年記念祝賀会でした。



内山会長

山下町長

土屋議長

佐藤教育長

文協「南風」

No.10

◆ 10月10日文化協会が設立から5年を迎えた。文化協会という大きな組織の向かう先を「いったい何をどうするんだ」と、怪物みたいな大それた難事業と関わって5年。苦痛の日々だったがあつという間の年月だった。◆ ひとを信じて活動すると、行き先にほんわかと明りが射し込むものだなあとということ、周りの人々の力を借り、支援と協力を得ながら進めると、必ず結果がついてくるなあとということが、この5年間の地域活動の中で特に強く学んだことだ。◆ 活動は、地域の皆さんや周りの皆さん、協会スタッフに依頼して活動していると確実に拡がる。拡がると思いがけない想定外の活動にぶつかると、協会が関わるそんな活動が格段に増えた。犬も歩けば棒にあたるか。◆ 例えは、島外からの情報問合せや、島のイベント等の文化情報の問合せが頻繁に寄せられるようになった。協会のHPやイベントカレンダーなどがその力を発揮していると実感できる。◆ 一例に、今秋開催した文京区民オーケストラ八丈島公演がある。また来春には杉並区「杉の森混声合唱団八丈島公演」から協会に後援依頼があり後押しをする。島に立派なホールがある故の縁だ。これからも確実に増えていくだろう。◆ 文化活動を通じた地域づくりを目標に掲げる協会だが、島外にも確実に拡がっている。島外からとなると、観光、産業なども影響している。島ぐるみの連携体制づくりも、さらに必要だと痛感する。◆ どれもこれも、出し合える力を惜しみなく出して、「ニーズを求めている人たちに見える形で集大成した努力の結果」に見えてくる。◆ この小さな島が島の地域づくりに繋がっているとしたら、それこそ文化協会の最も大切にしていくべきことである。次の節目10周年に向けて頑張ろう。

(会長 内山江差夫)

<12月～2月のイベント情報>

※ 協会主催・後援、協会加盟団体の催しを中心に掲載しています。その他の催しは八丈島文化協会サイト内の「八丈島イベントカレンダー」をご参照ください。

12月18日(日)	クリスマスコンサート(八丈ウインドオーケストラ)
12月23日(金)	中之郷アイランドクリスマス(マジックショー)
1月22日(日)	第28回八丈島文化フェスティバル (作品展部門は16日から22日)
1月28日～3月4日	八丈島歴史セミナー(それぞれ土曜午後予定)
2月11(土)・12日(日)	第72回八丈島民大学講座
2月18日(土)	あびの実コンサート

第28回八丈島文化フェスティバル、年明けに開催!

「第28回八丈島文化フェスティバル」(文化協会主催、町教育委員会ほか後援)が2017年1月に開催されます! 舞台部門には初参加の2団体を含む15団体が出演、作品展部門には5人と1団体が出展します。皆様お誘い合わせの上、ご来場下さい。(詳細は「広報はちじょう」1月号に折り込み予定のプログラムをご覧ください。)

○舞台部門 : 1月22日(日) 9時30分から17時 八丈町多目的ホール・おじゃれ

[出演団体] 八丈太鼓月曜会、コウリマナニエ(フラ)、無名劇団(仮(演劇)、三線愛好会「美ら島」(三線・沖縄民謡)、カレオオラカイアパナ～カパーフラオカウルレフア(フラ)、Gold Breath(楽器演奏、歌唱)、メグまゆ(フルート2重奏&ピアノ)、フラメンコサークル、檜之扇会(日本舞踊)、日本民謡朝元会、八丈混声合唱団、八丈島民謡保存会(加茂川会)、Heat up(ヒップホップダンス)、八丈島 soka 栄光バンド、声楽アンサンブル ConAnima(コーラス)

○作品展部門 : 1月16日(月)～1月22日(日) 町民ギャラリー(町庁舎1階)

[出展者] 村田乃撫子(組み木絵他)、木下恵美(クラフト)、松本恭子(ガラス細工) 菊池房子(粘土作品)、東海林ミモザ(刺繍作品)、八丈の布絵本結(布絵本・布おもちゃ)

2月11日(土)、12日(日)は、第72回島民大学講座

第72回八丈島民大学講座の概要が決まりました。講師の阿部裕志さんは、トヨタのエンジニアから島根県海士町に移住、農漁業をしながら仲間と起業した島の若きリーダー。「僕たちは島で、未来を見ることにした」という阿部さんから、八丈へメッセージが届きました。「都会の大企業で働いていた私が、なぜ人口2400人の小さな島である海士町に移住したのか。島民として、神楽や祭り、農業、漁業の様々な地域の担い手となり自ら起業し、都会や世界を相手に仕事を創り出していく中で、よそ者だからこそ気付けることがある。できることがある。自分たちの手で、ほしい未来

を創るために、今日だけの満足より、より良い明日に向けて、どう仲間を巻き込みながら行動していくのか。だんだんとわかってきたこと、感じていることそのありのままをお伝えさせていただきます。」

日時: 2月11日(土)午後7時30分～9時・12日(日)午後1時30分～3時

会場: 七島信用組合 八丈島支店 2Fホール **受講:** 無料

あびの実・子ども無料招待公演

狂言ミュージカル「入間川(いるまがわ)」

劇団鳥獣戯画

2016年10月30日(日) 三根小学校・体育館

今回の公演は日本の伝統芸・狂言。さて子供たちの反応は?

見事な松をバックにしただけの簡素な舞台。物語を解説する狂言回しとして、地元・入間に住む“小学生”が登場する。訴訟に勝ち、遠く都(京都)から故郷に帰る大名と太郎冠者、次郎冠者(ではなく本当は小学生の案内人)が、軽妙な言葉のやりとりと身のこなし、歌と踊りで道中を演じる。やがて入間川にさしかかり、向こう岸の地元の男に、川の名と渡り瀬を訪ねる。男は入間川は深く浅瀬はないと答えるが、大名はこの地方の“入間様(いるまよう)”という逆さ言葉と思い、川を渡って深みにはまりずぶ濡れになる。この、“入間様”という特殊な逆さ言葉による行き違いが作品の眼目です。

テンポの良さと現代風アレンジ、軽快な踊りと歌。ワークショップ後の子供たちからは“どこで練習しているのですか”“衣装はどうしているのですか”等々質問が続出。しっかり鑑賞できたようです。しかし、恨むらくは当日の非情な雨・風。子供たち無料招待公演にもかかわらず、観客数は100名ほどでした。悔しいかな、悲しいかな(狂言風に)……。

※ 本事業は文化協会の助成金で開催されました。



H29年度補助金申請収支予算書を提出しました

事務局会計担当

今年度も半期が過ぎ、29年度補助金申請のための予算案を立てる時期になりました。

今年度まで町からの補助金は6事業(文化協会事務、文化フェスティバル、ジャズフェスティバル、芸能文化祭、島民大学講座、子ども文化体験)ごとに収支予算を立てて申請していましたが、29年度はこれらをまとめて文化協会事業として一括の補助金を申請することになりました。それにより文化協会の裁量で各事業への補助金が配分できるようにしたいと思っておりますが、補助金は町から交付されますので、補助金申請書提出の後、町のヒアリングを経て町議会へ提案されます。3月開会の町議会での審議を経て正式決定され、その後文化協会に交付されることとなります。